

調査報告

「第2回 牛の感染症に関する全国アンケート」クロス集計報告

小熊圭祐

家畜感染症学会事務局、日本大学生物資源科学部

平成30年2月下旬から4月上旬まで牛の感染症に対する全国アンケートを行った。目的は感染症診療に対する臨床現場の現状を理解し、獣医師が必要としている情報の提供につなげるためである。全回答者数は284名で、男性が78.9%、女性が21.1%であった。回答者数の最も多い都道府県は北海道で、全体の35.9%であった。また、職種としてはNOSAI獣医師が全回答者の84.2%を占めていた。年間の延べ診療頭数として2,000頭以上を挙げた年齢層は30代の回答者が最も多く、次いで20代であった。

業務管内で発生の多い感染症、積極的にワクチンを接種している感染症、農家単位または地区単位で清浄化を進めている感染症の関係を解析すると、発生が多い感染症の第1位として約71%の回答者が細菌性乳房炎を挙げたが、それに対しワクチン接種を積極的に行っているとした回答者は約19%であった。一方、発生数の多い感染症として約30%の回答者が挙げた牛RSウイルス病は、積極的にワクチン接種を行う疾患として最も多い87.3%の回答者に挙げられた。牛伝染性鼻気管炎は約1.2%のみの回答者のみが発生の多い疾患として挙げたが、積極的なワクチン接種を行う疾患としては86.8%の回答者が選択していた。すなわち、予防すべき疾患でありワクチンが有効な感染症として広く認識されていると考えられる。牛白血病(BLV感染後未発症を含む)は発生数が多い感染症の第8位であったが、清浄化を進めている感染症としては約48%の回答者が挙げ第1位であった。総合的には発生数の比較的多い感染

症においても、積極的にワクチン接種を行っているものと、そうでないものがあると考えられる。清浄化対策を進めている感染症として多く挙げられたのは牛白血病、牛ウイルス性下痢・粘膜病、サルモネラ症などであった。

本学会で今後特集を組むことを希望する感染症として最も希望が多かったものが牛白血病が25.4%であり、その結果から今回のアンケートシンポジウムが企画されている。牛白血病以外では細菌性乳房炎の治療法や予防法に関する特集を希望する回答者が多かった。その他、本学会で今後特集することを希望する感染症として挙げられたものは、牛コロナウイルス病、牛RSウイルス病やマイコプラズマ性中耳炎などであった。

本アンケートから、臨床獣医師が頻繁に遭遇するものの、治療や予防などの現場対応に苦慮し、具体的な対応法を模索している状況が具体的に浮かび上がってきた。本学会が今後も獣医師の診療の一助となれるよう、問題点や要望を把握し情報発信を続けてゆきたい。

受理：2018年10月9日